

がくしゅうかだい（1ねんせい）



【こくご】おうちのひととけいかくをたててがくしゅうをしていきましょう。

<べんきょうすること>

◆「わけを はなそう」（きょうかしよ 48～49^{ペー}_ジ）をがくしゅうします。

- (1) 49 ページの みぎうえ のえをみます。おんなのこのひょうじょう（かおのようす）から、おんなのこのきもちに ちかい のはどちらでしょうか。

うれしい ・ かなしい

- (2) おんなのこは、どうして(1)でえらんだきもちになったのでしょうか。49 ページの なかのだん の みぎのえ をみて、どんなことがあったのか、わけを かん がえてみましょう。

※おんなのこは、あさがおのはちをみえています。うえたあさがおが、どうなっているのでしょうか。

- (3) (1) と (2) をもとに、おんなのこがはなすかたちにあらわしてみます。
□にあてはまることばをかんがえて、はなしてみましょう。

わたしは、□ です。

どうしてかと いうと、□ からです。

- (4) じぶんのきもちを、はなすれんしゅうをします。わけもいれて、はなして みましょう。

わたしは、□ です。

どうしてかと いうと、□ からです。

◆「おばさんと おばあさん」（50～51 ページ）をがくしゅうします。

- (1) 50 ページのぶんを、こえにだしてよんでみましょう。
(2) 51 ページにでてきたことばを、ゆっくり はっきりよんでみましょう。
(3) 51 ページにでてきたことばを、ノートやとりくみシートにれんしゅう しましょう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆「わけを はなそう」は、気持ちと理由を話す学習です。

- ・ (3) (4) の学習では、お子さんが話す様子を聞き、わけを話せたときは、大いに褒めてあげてください。

◆「おばさんとおばあさん」では、長音（母音を伸ばす音）と、「を」の学習をします。

- ・ (3) の学習では、「おかあさん」のように、長音の部分が正しく書けているかを見てあげてください。「を」の使い方については、今後繰り返し学ぶことで、身に付けていきます。

【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの あどばいす アドバイスです。

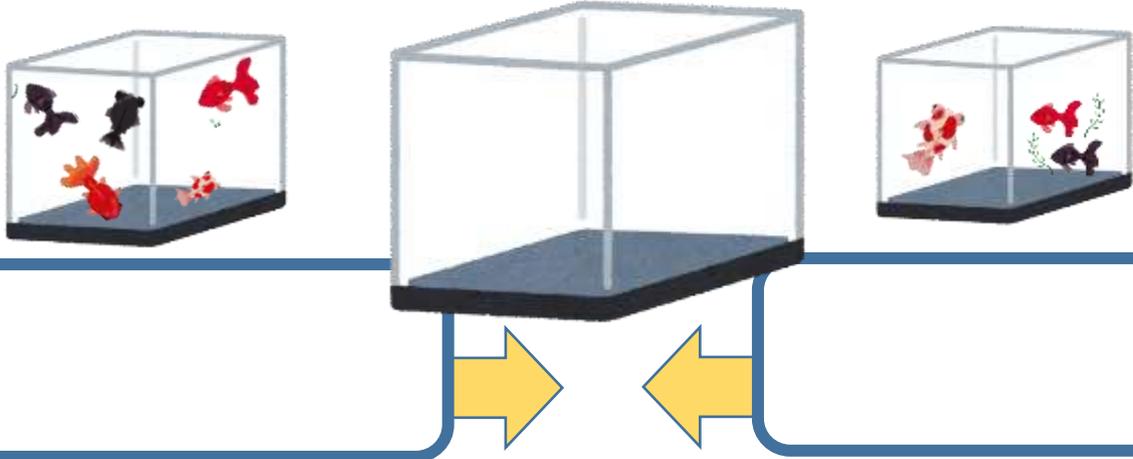
<べんきょうすること>

◆「ぜんぶでいくつ」（きょうかしよ 47～49ページ）

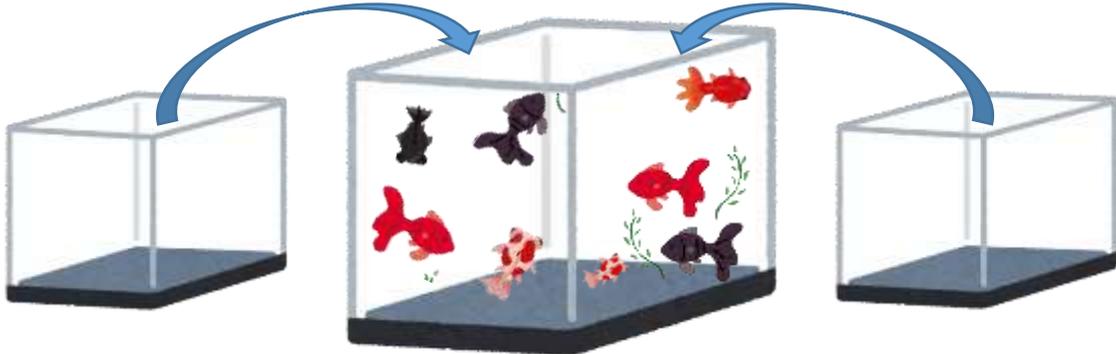
あわせると なんびきに なるかな？
おはなしの とおりに ぶろっく ブロックをおいて うごかしてみよう

- (1) ひだりのすいそうに きんぎょが、 5ひきいます。
みぎのすいそうに きんぎょが、 3ひきいます。

※わくのなかに ブロックをおきます。



- (2) きんぎょを おおきなすいそうに いれました。

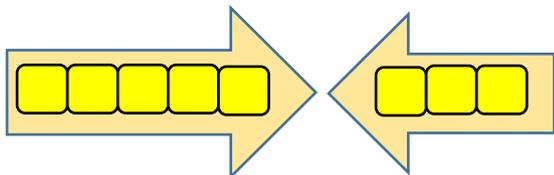


- (3) あわせると ひきになりました。

(4) おはなしを しきであらわすと…

しき $\square + \square = \square$

こたえ \square ひき



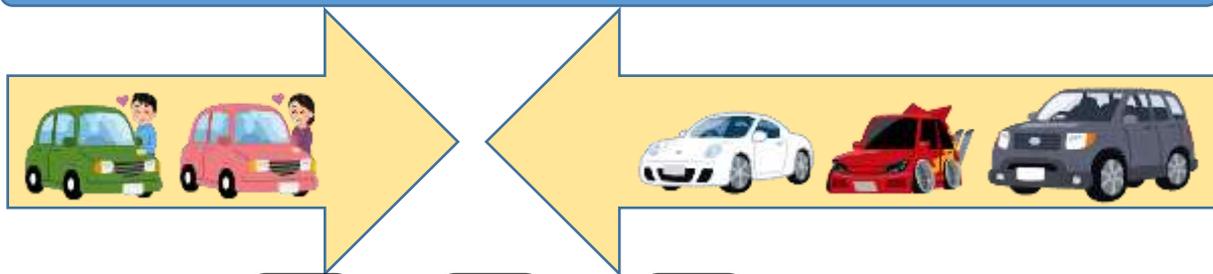
5ひきと 3ひきを あわせると、
 ひきに なります。



きんぎょを おおきなすいそうに 入れた おはなしを
 ノートに○のずであらわせるかな？

※きょうかしょの49ページの ノートのずを みて かいてみよう。

えを みて たしざんの しきに かきましょう。



$\square + \square = \square$

じぶんで 「あわせてなんこ」になる たしざんの おはなしを
 かんがえて ノートやとりくみシートにかいてみよう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆いくつといくつ（教科書 P47～49）

- ・お話に合わせてブロックを動かしたり、絵から式をに表したりするなど、1年生で学習するたし算は、様々なものに置き換えながら関連を図ることで数の感覚を豊かにしていきます。これは、この後のひき算の学習でも同様です。
- ・数感覚を豊かにしていくには、時間がかかります。ですから、1年生は、「計算して答えを出すこと」だけでなく、「式」からお話を作ったり、絵から問題文を考えたりしながら、数の見方を育てていく大切な時期になります。